



COLORS
FUTURE!
ACTIONS
KAWASAKI 100th

川崎市制 100 周年記念事業
令和6年度 橘樹官衙遺跡群保存活用事業

たちばな
橘樹歴史公園オープン記念式典

橘樹歴史公園（全国初の飛鳥時代の復元倉庫）

川崎市教育委員会

次第

令和6年5月18日（土）

— 第1部 — 10時～11時

橘樹郡司（川崎市長）あいさつ

来賓あいさつ

来賓紹介

感謝状贈呈

“閉封（へいふう）の儀 [セレモニー] ”

— 第2部 — 11時20分～12時

雅楽「賀殿（かてん）」上演

（公益社団法人北之台雅楽アンサンブル）

かてん 『賀殿』とは

『賀殿』は^{かてん}壹越調に属する唐楽曲で、^{いちこつちよう}緩やかでやわらかな舞が特徴の平舞（四人舞）です。

9世紀前半の仁明天皇（承和年間：833～847）の時代に、藤原貞敏（807～867）が唐から持ち帰った琵琶の譜面から、^{わにべのおおたまろ}和邇部太田麿が^{はやしのまくら}笛の譜を、林真倉が舞を作ったとされています。

この曲は、古来より建物新築の際に用いられることが多く、今年の大河ドラマの主人公である紫式部が書いた『紫式部日記』の中にも、1008年にこの『賀殿』が演じられたことが記されています。

『賀殿』の見どころは、ゆったりして重厚な「破」の舞と、早い動きで変化にとんだ「急」の舞が、あざやかな対比をみせるところや、それぞれの楽章がもつリズムの違いなどです。

舞人は、赤系統の色を基調とした^{かさねしょうぞく}襲装束を着用し、赤の^{ほう}袍の右袖を脱ぐ^{かたかたぬぎ}片肩袒で舞うため、^{したがかさね}下襲の袖の文様などの華やかさが強調されています。

^{かぶと}甲は、賀殿専用の甲を用いています。